

論壇

都市の力を引き出す鍵

最近読んだ、ハーバード大学のグレイザー教授による「都市の大勝利」(triumph of the city)という本は、興味深かった。都市の持つパワーの源泉が、多様なものが混ざり合う集積にあるという点を説得力をもって論じているのだ。

都市の特徴は多くの人や企業が混在しており、外の世界との間で多くの人が出入りする、という点にある。新しい価値は、異質なものが交わりあうことから出てくる。同質社会からは、新しい価値はなかなか生まれてこないのだ。

重元 伊藤 元重
機構開発研究 伊藤 元重
教授 東大 伊藤 元重
理事 伊藤 元重

これは都市と農村を比べてみれば分かる。農村は同質社会であり、同じ人との付き合いの連続である。隣人との緊密な付き合いは心地よいし、人間的でもある。ただ、残念ながらそうした社会からは、なかなか新しい価値は生まれてこない。

デトロイトは、ある時期は米國を代表する産業である自動車の王国として栄えた。しかし、別の見方をすれば、それは自動車産業しかない都市でもある。そこには異質のものが出てくる余地は乏しい。産業というのは栄枯盛衰があるものだ。米國の自動車産業が傾

日本の将来を考える上でも、こうした都市の集積や混在のパワーをどうやって引き出すのが鍵となる。静岡県の将来の姿を考える上でも、県内に優れた集積をどう構築するかが重要である。

積効果を發揮できる町がない地域に、将来の発展は期待できない。旧来の文化や歴史を大切にすることは重要であるが、同時にそうしたものに新たな異質なものをぶつけていくということが重要となる。

「異質」が新しい価値の源泉

グレイザー教授は、成長を続けるニューヨークと、衰退を続けるデトロイトという都市を比べている。ニューヨークは、いうまでもなく、世界中からいろいろな人が集まってくる。異質のものがぶつかりあうことで、文化から産業まで、多くの新しいものを生み出す都市である。

き始めたら、デトロイトの町も火が消えたようになってしまった。これに対して、ニューヨークは、いろいろな産業や文化が共存する町である。一つの産業が衰退しても、それに代わるものが出てくる。多様なものがぶつかりあうことで、これまでには存在しなかった新しい価値が生まれてくるのだ。

浜松地区は自動車やオートバイの産業集積として繁栄してきた。これからもそうした繁栄が続くことを期待したい。ただ、いつまでも同じ産業で繁栄を続けられると考えてはいけない。いかに新しい産業や文化を生み出していくのが重要である。そのためには、積極的に異質なものを取り込む必要がある。

これは県の中部や東部の都市でも同じことだ。ダイナミックな集積も同じことだ。異質なものを取り入れる方法はいろいろある。外から企業を誘致するというのはその一つの方法だ。県内の大学に県外から多くの若者を呼び込むことができれば、それもよいだろう。ただ、何よりも手っ取り早くて効果的なのは、外国人に多く来てもらうことだろう。海外からの留学生をどれだけ引っ張ってくるかができるのか。こうした方は、案外その地域の将来性を決める重要な要因となるのかもしれない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。